

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292700051		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホーム はしかみ苑		
所在地	三戸郡階上町蒼前西7丁目9-407 TEL 0178-80-1818		
自己評価作成日	令和2年9月23日	評価結果市町村受理日	令和3年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20-30		
訪問調査日	令和2年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・定期的に季節に応じた行事を開催し利用者様が楽しみをもてるような取り組みをしている。また、地域の方との繋がりを重視し、運営推進会議や避難訓練等、ホーム行事への参加を促し、交流を図っている。</p> <p>・随時、介護相談や見学等を行い、認知症の方の理解が深まるように取り組んでいる。実習生等の受け入れを積極的に行い、地域社会に貢献できるように努めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「笑顔あふれるサポートセンターを目指します」の理念を掲げ、近所に施設の案内を配布し、相談や見学等、地域の人たちと交流を図っている。妙水苑グループ合同で接遇委員会や個人情報委員会を立ち上げている。毎月、身体拘束やプライバシー等について確認しながら取り組んでいる。避難訓練は防災協力隊や警備保障会社の社員も参加し、利用者の誘導等、具体的な場面を想定して行っている。通報訓練や2階から車椅子の方を避難させるにはどうすればよいのか等を検討している。コロナ禍で外出が制限されている状況ではあるが、気分転換できるように苑内散歩や映画鑑賞、レク大会、おやつ作り等、工夫して取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は地域密着型サービスを目指したのとなっており、職員も理念に沿った個人目標を掲げて、日々のサービス提供場面で実践している。	「笑顔あふれるふれあいサポートセンターを目指します 自由におんであんせ」は、地域密着型に移行する際に見直して作成した理念である。廊下に掲示して職員は共有し、日々のサービス提供に反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	避難訓練では民生委員の方に協力していただいて、近隣の住民の参加を促し交流を図っている。	事業所では、随時、見学や相談を受け付けている。中学生や高校生のグッジョブを受け入れたり、近隣の介護を学ぶ短大生をバイトで受け入れている。地域の防災協力隊「おたすけ隊」をお願いをするなどして地域と交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の見学や認知症の相談を随時行っている。認知症の方への理解や支援方法について、地域に還元できるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者の施設での生活や実地指導等の報告を行っている。また、意見を交換し、サービス向上に活かしている。(新型コロナウイルスの感染拡大防止及び予防のため、ホームでの活動を書面で報告し意見を求めています。)	運営推進会議は、地区長・地区民生委員・健康福祉課担当者・家族代表・利用者代表が参加し、2ヶ月に1回開催している。実施指導の報告や介護保険・インフルエンザ等についても書面で説明して意見を求めている。会議の議事録を、家族や来訪者が閲覧できるように玄関に設置している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の開催時は健康福祉課の担当者に参加していただき、事業所の実情等を報告し相談している。(新型コロナウイルスの感染拡大防止及び予防のため、ホームでの活動を書面で報告し意見を求めています。)	毎回、役場の健康福祉課地域密着担当者が運営会議に出席している。入退去の連絡や必要に応じて相談するなどしており、行政との連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所で委員会を立ち上げ勉強会を開催して、職員の知識、技術の向上に力を入れている。やむを得ず身体拘束を行う場合は、家族に同意を得た上で必要な記録を残し、健康と安全確保に努めている。(新型コロナウイルスの感染拡大及び予防の為、資料での意見交換を実施している)	毎月、グループ内の3施設(はしかみ苑・しろがね・妙水苑)合同の「身体拘束適正化検討委員会」を開催し、事例を検討するなど情報を共有して、身体拘束を行わないよう取り組んでいる。現在は、身体拘束を行っていないが、万が一行わなければならない事態に備えて記録をする体制を整えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会(内部研修・外部研修を含む)を定期的に開催しており、全職員が、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、サービス提供等の際に、虐待のないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個人情報委員会が中心となり勉強会(内部研修・外部研修を含む)を定期的に開催し、権利擁護に関する制度を理解できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は家族への説明を十分に行い、同意を得ている。また、改定等の際は速やかに家族へ文書で通達して、安心して施設を利用していただけるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会の際は意見、要望等がないかの確認を徹底している。玄関にも意見箱を設置し、利用者、家族の要望を受け入れやすい環境作りに努めている。	家族の面会時や電話等で意見や要望がないか声掛けをしている。職員は、利用者の言動等からも意見や要望等がないか把握するよう努めている。毎月、苑たより(写真入り)を発行し利用者の暮らしぶりや受診状況、金銭出納帳を報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に管理者と職員で面談を行い職員の意見を聞く機会を設けている。また、必要時には全職員で話し合いをして働きやすい環境作りに努めている。	月1回、苑会議を開催し、「チームケア」を意識して情報共有を行っている。職員から出された意見について話し合いをしており、ハード面の要望等は妙水苑グループの議題として検討されている。職員は、年2回管理者と面談をし、意見や困っていること、個人目標等について話す場となっている。事業所では資格取得を支援し、職員14名中介護福祉士11名である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価の高いスタッフは正職員へ登用する制度を設けており、向上心を持って働ける環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の能力に応じて必要な研修を受ける機会を設けており、研修を受けた職員は施設の勉強会等で伝達している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	階上町情報交換会(定期勉強会)に参加して、他事業所と交流や意見交換をする機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の際には直接相談する機会を持ち、要望に応じたサービスを提供できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談があったときは、随時面談してニーズを把握し、信頼関係を構築できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前にアセスメントを充分に行い、利用者と家族に必要なニーズを見極めてケアプランに反映し、サービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の要望をよく聞いて、能力に応じたできることに目を向け、主体性を重視した支援計画を立案している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りで利用者の施設での生活を報告している。ケアプランにも家族の要望を取り入れて、職員と共に本人を支えていく関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や利用者からの聞き取り(アセスメント)で得た情報をもとに、居室に関連性のある写真を掲示してコミュニケーションを図る機会に活かしている。	自宅近所の方が面会に来てくれる等、これまでの馴染みの方との関係が継続されている。電話や年賀状は書ける方、代筆の方など全員が出せるよう支援している。今年はコロナのため、窓越しで10分程度の面会とし、検温や連絡先の記録を行っている。短時間ではあるが、利用者の笑顔が見られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の良い利用者が同席になるよう配慮して、利用者が交流し易いように努めている。また、状況に応じて職員が介入する等して、一人ひとりが孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した家族からの相談や問い合わせに対しても、これまでと変わらずに親身に対応して、支援するよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本位のケアを重視し、アセスメントを十分に行ったうえで支援を検討している。また、ご家族からの情報もケアマネジメントに反映させている。	利用者の思いや希望、意向の把握に努めている。言葉でうまく言い表せない方には、文字盤を利用してコミュニケーションをとれるよう工夫している。全職員は、利用者が「その場を心地良く過ごせるように」という姿勢で取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集を行って、利用者の生活歴や習慣を大切にしている。入居前の生活状況について、ご家族からも積極的に聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートを活用し、一人ひとりの心身の状態や能力の現状把握に努めている。また、介護記録に利用者の心身の状態変化を記録し、全職員が情報を共有できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画更新時は、家族と利用者の要望の確認を行い、状況に応じて他職種からの意見を取り入れた介護計画を作成している。	「課題整理総括表」を活用して、全職員の意見や気づきを共有し、評価とアセスメントを行っている。本人に何が 필요한のか、職員は何をサポートすればよいのか検討して介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケアの実践記録を記入し情報共有をしている。また、ADL等の変化に応じた職員の対応方法やアイデアを申し送りノートにも記入し、実践して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の体調の変化や家族の状況に応じて受診時等に同行するなどしている。一人ひとりのニーズに柔軟に対応し、利用者や家族に満足していただけるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員等と協働して、利用者が地域交流の場に参加できるよう努めている。運営推進会議ではメンバーとの情報交換を行い地域資源の把握に努めている。(新型コロナウイルスの感染拡大及び予防のため、文書で情報交換を行っている。)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人グループ内の訪問看護や訪問診察のほか、24時間のサポート体制があり、利用者の健康を維持できるように努めている。	利用者や家族が希望する医療機関を受診できるように支援している。受診する方と家族を苑で送迎し、家族が付き添いをする方もいる。月2回訪問診察を行っている他、看護ステーションが隣接しており24時間サポート体制にある。受診結果に変化がなければ苑たよりで家族に報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一人ひとりのバイタル、食事量、排泄状況を毎日記録して健康管理を行い、医療連携を通じて看護と24時間相談できる体制ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は同行しており、家族が来れない場合でも本人が安心できるよう努めている。また入院中も病院関係者との連絡を密に行い、本人の状態が常に把握できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化や看取りの指針についてホームでできることを家族に説明して、書面で同意をいただいている。また、健康状態が悪化したときは、医療機関や家族等と面談を行って方針を共有し、チームで支援できる体制を整えている。	「利用者の重度化及び看取り介護に関する指針」を明確にし、入所時に家族に説明している。重度化して経管栄養や痰の吸引などの医療行為が必要になった場合は、対応可能な施設を紹介している。これまで看取りの例はないが医療機関や家族と連携を図りながら支援する体制を整える姿勢である。職員は終末期の対応について勉強し、備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命研修(AEDの社内・外)を定期的に行っている。また、利用者の急変時や事故発生に備えたマニュアルがあり、全職員が実践できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署からの指導を含めた避難訓練を定期的に行っており、全職員と利用者が災害時に対応できるよう努めている。また、非常食を準備し、定期的に点検して被災時の準備も整っている。	年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を実施しているが、今年はコロナ禍のため自主訓練となる。防災協力隊への協力依頼や警備保障会社の社員にも参加してもらい、利用者の誘導などに協力いただいている。ガス発電機の使用方法や2階からの車椅子の方の避難訓練、緊急連絡網など具体的に実施している。食料品等は2日分備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症ケアの勉強会を定期的に行っており、個々の職員の知識と技術の向上を図っている。また、事業所に接遇委員会を設置して、利用者のご家族様への接し方を指導している。	妙水グループの接遇委員会や個人情報委員会で確認しながら取り組んでいる。入室時のノックや入浴時・排せつ時の声掛けに配慮している。また、写真掲載は所内に限定し、外部で使用する場合は家族に了解を得るなどしてプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の気持ちを言葉で表現することが難しい利用者には特に配慮し、複数の選択肢を提示するなどして自己決定しやすい対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人とコミュニケーションをとりながら要望を把握して、本人のペースで安全に過ごしていただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	週2回の入浴を基本とし(汚染時は随時)、清潔の保持に努めている。利用者の要望に沿ったヘアスタイルや洋服を選択し、その人らしいおしゃれができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、一人ひとりがスムーズに安全に安心して食事摂取ができるように見守り、必要に応じて介助している。また、食器拭き等の後片付けと一緒に行ってコミュニケーションを図っている。	栄養士が献立を立て、利用者の好み等にも配慮し、季節を感じられるように工夫しており、利用者の嚥下状態に合わせた食事を提供している。また、希望があった食事内容は、イベントのバイキング等で提供している。職員は夕食と一緒に摂っている。三食手作りの食事を提供しており、職員は夕食と一緒に摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士によってカロリーや栄養バランスに配慮されている。利用者の体調やADLに応じて、食事形態を変えて摂取しやすいように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ホーム内で勉強会を開催しており、職員一人ひとりが口腔ケアの重要性を理解している。また、食事前に口腔体操を行い、食後は利用者のADLに応じた口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、適切なトイレ誘導を行うことにより排泄の自立を目指し、快適に過ごせるように支援している。	ひとり一人の排泄パターンを記録し、把握している。事前誘導を行うなどして自立に向けた支援を行っている。尿意や便意の確認や失禁時の対応などは、羞恥心に配慮し他の利用者に気づかれないよう速やかに行っている。トイレに清拭用タオル温めのジャーを用意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操や身体を動かすレクリエーションで適度な運動を行っている。必要に応じて主治医に相談し、内服薬の調整をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	利用者のADLに応じて、できない部分は手伝って安全に入浴できるよう努めている。また、本人の意思を尊重し納得してから入浴できるよう努めている。	週2回入浴日を決めているが、希望があれば別日でも入浴可能である。利用者の好み等にも配慮し、浴槽に入れない利用者はシャワー浴にするなど、心地よい入浴時間となるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の心身の状態に応じて、就寝時間以外にも適切な休養をとれるよう注意し、水分摂取量等にも注意するなどして快適に安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の介護記録へ服薬カードを挟み、全スタッフが容易に用法、副作用等の確認ができるようにしている。また、内服薬の管理を行い、服薬時は薬を飲み込むまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの心身の状態を見極めADLに合わせて洗濯物たたみ等や散歩、トランプ、塗り絵等をしていただいて、施設での生活の中に楽しみを持っていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者からの要望を確認し、心身の状態に合わせて近場へのドライブ等を実施している。(現在は新型コロナウイルスの感染拡大防止及び予防のため、敷地内での散歩で気分転換を図ったり、室内でのレクリエーションを充実させて利用者に満足していただけるよう取り組んでいる)	これまで、月1回は外出を計画していたが、コロナのため病院受診以外は外出できない状況である。苑内散歩や映画鑑賞、トランプ等のレク大会、おやつ作り等を計画し、利用者の気分転換を図っている。利用者は楽しめているので外出できないストレスを感じていない様子である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のお金は施設側で管理している。外出時など使いたい時には、スタッフが付き添って希望に添えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により、スタッフが家族へ連絡して相手が出たら本人に代わっている。自分で話せない方には、内容を確認してスタッフが代弁している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の移り変わりが分かるような絵や装飾品を掲示している。室内の温度や湿度が常に快適な状態を維持できるように、換気や暖房機器の調整を行っている。	毎月、季節を感じられるように装飾を工夫している。昼食後や夜間に明るさを調整して、活動時間と休憩時間を明確にしている。エアコンを備えて温度調節をし、加湿器や水を入れたバケツを置くなど湿度を調整している。朝日等の日差しはカーテンで調整している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人間関係等を考慮した座席を検討している。また、気分に応じて居室で独りで過ごせるように居室内の環境調整を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等の配置も本人や家族の意見を聞きながら、好みに合わせ設置して、居心地の良い環境を提供できるよう努めている。	利用者の作品や誕生日の写真等を飾っている。肌掛け布団やタオルケットなどを持ち込み使用している。また、箸や茶わんなど入居前から使っていたものを持ち込み使用されている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	アセスメントシートを活用して各利用者の可能性を引き出すよう努めている。また、過剰な介助に注意し自立支援の概念に基づいて、残存能力を維持できるよう努めている。		